

令和2年度 名古屋大学総長顕彰授与式が行われました

令和3年3月25日（木） 豊田講堂第一会議室にて



総長顕彰委員会

佐久間委員長（副総長・学生支援担当）

増田委員（法学部長）、園田委員（経済学部長）、門松委員（医学部長）、水谷委員（工学部長）、北委員（高等教育研究センター長）、原田委員（生協理事長）

本顕彰に係る募集は、各部局への募集要項等送付、ポスター、ホームページを通じて、令和2年12月1日（火）～令和3年1月8日（金）の期間に行われ、その結果、「学修への取り組み」部門に8件の学部推薦が、「正課外活動への取り組み」部門に自薦・他薦を合わせて6件の応募があった。

これら合計14件の推薦・応募について、総長顕彰委員会による厳正な審査及び合議を経て、最終的に10名の学生を令和2年度総長顕彰として表彰することを決定した。

| 学修への取り組み 部門 受賞者 | | |
|-----------------|-------------------|--------|
| | 文学部 人文学科 4年 | 野沢 華 |
| | 教育学部 人間発達科学科 4年 | 浅井 裕妃有 |
| | 経済学部 経営学科 4年 | 牧 綾乃 |
| | 情報学部 コンピュータ科学科 4年 | 婦木 紡 |
| | 理学部 物理学科 4年 | 石川 智浩 |
| | 医学部 医学科 6年 | 藤枝 久美子 |
| | 工学部 機械航空宇宙工学科 4年 | 青木 瑞穂 |
| | 農学部 応用生命科学科 4年 | 大塚 茉代 |

| 正課外活動への取り組み 部門 受賞者 | | |
|--------------------|-------------|-------|
| | 医学部 医学科 5年 | 中川 晴子 |
| | 文学部 人文学科 4年 | 若杉 美穂 |

学修への取り組み 部門 受賞者 受賞者のことば・講評

野沢 華 文学部 人文学科 4年

自身の興味・知的好奇心に忠実に、貪欲に

私は文学部で日本語学を研究してきました。私が大学での学修で行ってきた事は、四年間貫いた一つの軸に基づいています。それは「自身の興味・知的好奇心に忠実に、貪欲に」というものです。

私は高校生の時から日本語学を学びたいという強い意志を持っていました。そのため大学では入学直後から専攻の授業や関連科目を出来る限り履修し、また授業外でも、論文や参考書を読み知見を広げる、留学先で独自に現地の日本語教育に関する調査を行う等の行動を起こしました。また常に日本語へのアンテナを張り、「課題のための研究」ではなく「自らの疑問解決のための研究」を行い、卒業論文では自らが高校古典文法で疑問に感じた「助詞」をテーマに、自分なりの回答を示すことができました。

この四年間で私は「自ら行動を起こし学びを深める力」を得ることができたと考えます。今後も日本語学はもちろん、社会人として様々な事に貪欲に学びを深めていきたいと思えます。

講評：学修において「自身の興味、知的好奇心に忠実に、貪欲に」という主体的積極的な姿勢で取り組んだ。特に語学の修得に力を入れ、優秀な成績を修めた。自身の興味の持てるものを積極的に学習し、疑問に思ったことは妥協せず突き詰めて学ぶ姿勢は周囲の模範となった。今後は社会人としてさらなる活躍が期待される。

浅井 裕妃有 教育学部 人間発達科学科 4年

初心を大切に学び続けた大学生活

私はこの4年間、教育学部の講義だけではなく、障害学生支援活動、外国語や手話の学習など、様々なことに自主的に取り組んできました。その中でも特に力を入れたことは、日本の子どもの貧困に関わる学びです。

私は、高校時代に、知り合いが経済的理由で大学進学を断念したことをきっかけに貧困問題に関心を持ち、教育学部に入学しました。大学入学後は、生活困窮家庭の子どもを対象とした学習支援事業にも参加してきました。学びを深めるうちに、雇用環境が子どもの貧困に与える影響に関心を持ち、卒業研究では、シングルマザーの貧困と自立支援をテーマに、ワークフェア政策の課題や就労と住居の関係性にも目を向けて、貧困解決に向けた就労支援のあり方を検討しました。

卒業後は、公務員として地域の労働行政に携わります。教育学部での学びを生かし、労働の分野から人々の安定した生活を支え、地域社会に貢献していくことが今後の私の目標です。

講評：学業成績が非常に優秀であり、自分自身の興味関心を大切にし、ボランティア活動や外国語の勉強等様々なことに挑戦した。机上の学習だけでなく、より実践的に学びたいと考え、学習支援活動にも積極的に取り組んだ。卒業研究では政策動向を理解した上で、実践的な視点から今後の課題を提起し、優れた内容の論文を書き上げた。今後は国家公務員として社会に貢献することが期待される。

牧 綾乃 経済学部 経営学科 4年

卒業後は自分以外の人のために努力

私の大学4年間はほとんど公認会計士試験に費やしたと言っても過言ではありません。大学で簿記の授業を受けたことをきっかけに、大学1年の10月に勉強を始め、短答式試験、そして論文式試験へと順調に進み、奇跡的に一発合格することができました。

会計士試験は難関試験として知られており、最短でも2年ほどの勉強が必要となります。会計士試験に限らず、たくさんの努力を必要とするものは、努力しても運悪く結果を残せない人や、その途中で心身が疲れてしまい、努力できなくなってしまう人が存在します。私も一時期、心も体も限界にあるときがありました。そんな中、家族や友人、先生方に支えられてなんとかここまで這い上がることができました。

今後は、成果に奢ることなく、次は自分が周りの人々の心の支えとなり、社会にも貢献する会計士になりたいと思っています。また、監査法人での経験も活かし、他の様々な仕事にもチャレンジしたいと考えています。

講評：大学在学中に難関とされる公認会計士試験の勉強に取り組み、3年次において優秀な成績で合格した。また専門科目の勉強以外に、全学教養科目などを積極的に受講し、アメリカ短期留学も経験した。現在は国際的に展開する監査法人で実務経験を積んでおり、今後は経験を生かしてさらなる活躍が期待される。

婦木 紡 情報学部 コンピュータ科学科 4年

積極的な学習

自分は、文理融合の学部であり幅広い分野の学習ができるという期待などから情報学部に入學しました。入學後は、得られた勉強の機会を存分に活かしたいという思いのもと、学科を問わず多くの講義を受けてきました。講義の際には疑問に思ったことは積極的に質問することを心掛けてきたため、理解を深め見聞を広めることができました。情報学の専門的な知識は勿論、積極的また貪欲に知識を得ようとすることの重要性も学ぶことができ、大変有意義な大学生活を送ることができました。

講義外では主にプログラミングの学習、とりわけ競技プログラミングの学習に熱心に取り組み、2019年の国際大学対抗プログラミングコンテスト ICPC では名大の代表チームの一員としてアジア地区大会に出場いたしました。

卒業後は名古屋の企業でアルゴリズム開発エンジニアとして勤務します。大学生活を通じて得られた積極性や知識、論理的思考力を活かし、ひたむきに社会へ貢献して参ります。

講評： 高い学修意欲を持ち、自身の学科だけでなく、他学科の講義も積極的に受講し、極めて優秀な成績を取得した。学部1、2年時には成績優秀者として表彰された。またプログラミングに精力的に取り組み、国内外の競技プログラミング大会に参加し、さらなる能力向上に努めた。卒業後は専門知識と培った経験を活かし、社会に貢献することが期待される。

石川 智浩 理学部 物理学科 4年

未知なる方法の実現を目指して

入學してから積極的に行ってきたことは、情報の整理と仲間との議論です。私は入學当初から、特に物理学を広く、深く学びたいと思っていました。それを可能にすべく、学んだことを自らで咀嚼、吟味して、自分だけの「本」を作成し、物理に対する深い理解に努めました。また同時に、長期休暇に友人と輪講をしたり、課外時に講義の内容についての意見を交えたりして、多視点からの理解にも取り組みました。

この培ってきた物理に対する洞察と努力する姿勢は卒業研究にも生かされました。より専門的で実践的な知識を蓄え、また他大学の方とも密に交流し、その結果、学術論文を投稿することができました。

4月からは大学院に進学し、重力波検出器の感度改善についての研究を更に進める所存です。これまで理解のために作成してきた「本」をこれからは活用し、またこれまで以上に多くの人と関わりながら、未知なる感度改善の方法を多面的に模索していきます。

講評： 研究活動において、自らの強い意志で深く学習していくことに努力を惜しまず、仲間たちと積極的に議論を行い、極めて優秀な成績を修めた。特に専門分野である重力波に関する自分の理解をまとめたオリジナルノートの作成に力を入れ、留学生への伝達授業を行うなど周囲の模範となった。今後は大学院での更なる活躍が期待される。

藤枝 久美子 医学部 医学科 6年

医学部に学士編入学したことで得られた学び

私は本学に入学する以前、東京大学農学部で基礎研究を行い、その後、製薬企業で創薬研究に従事してきました。こうした研究活動に携わる中で、臨床応用に繋がる研究を実現するために医学知識を身につける必要性を感じ、名古屋大学医学部に編入学しました。

入学後は医学部の授業や病院実習で臨床知識を学びながら、免疫代謝学研究室に所属して、急性腎障害の慢性化メカニズムの解明を目指す研究に取り組みました。研究成果は生理研・名大医合同シンポジウムや日本心血管内分泌代謝学会学術総会で発表し、Journal of Experimental Medicine 誌に投稿することができました。この経験を通して、基礎研究の段階から明確に臨床応用を見据えた研究の進め方を学ぶことができました。

卒業後は、名古屋大学医学部附属病院で初期研修を行う予定です。ゆくゆくは臨床研究や治験などに携わり、これまでに培った経験や知識を基盤にして、より良い治療法の開発に貢献していきたいと考えています。

講評：さまざまな経験を経て、医学・生命科学への興味を深め、明確な目的意識をもって名古屋大学医学部に進学した。授業や研究活動において、多くの課題に直面したが、積極的に取り組み、学修と研究の両面で顕著な成果が得られた。また、研究成果を学会や専門誌に発表し、慢性腎臓病の新たな予防法開発に貢献した。今後は医師として大いに活躍することが期待される。

青木 瑞穂 工学部 機械航空宇宙工学科 4年

学べば学ぶほど難しく奥深い研究

工学系、特に機械の分野においては、新しい技術の開発が人々の生活を大きく変化させることがしばしばあります。一方で、些細な人的ミスや知識不足は多数の人命を失う事故を引き起こしかねないという一面も持ち合わせています。これに対する危機感から、学部での4年間ではものづくりに携わる者として必要な知識を幅広く身につけるように努力しました。

卒業研究ではモビリティシステムグループに所属し自動運転に関するテーマを扱いましたが、研究によって社会に還元可能な成果を出すには先見性・課題発見力・思考力など複数の能力が高い水準で必要とされることを知り、学部で身につけた知識は研究に取り組むための単なる前提にすぎないことを思い知りました。

大学院に進学後は、自分に足りない力を磨きつつ、自動運転技術の向上に貢献できるような研究成果を出すよう努めたいと考えております。

講評：大学では特に知識の幅を広げることと体系的な知識を得ることに力を入れ、自ら学びのチャンスを増やし、幅広く深く知識を修得した。また、情報学の体系的な知識を得るため、プログラミングを学習し、システム開発まで行い、情報系国家資格も取得した。今後は大学院に進学し、自動運転制御など、社会のあり方を変えるような研究成果を生み出すことが期待される。

大塚 茉代 農学部 応用生命科学科 4年

探究心と向上心を基に

私は大学生生活の4年間で最も学業に力を入れてきました。幅広い分野に興味を持ち、より多くを学び、より多くの知識を身に付けたいという思いから、興味をもった講義はすべて受講してきました。講義には積極的に取り組み、理解できなかったところは先生に質問する、納得できるまで調べるなど、勉学に励んできました。この4年間を通して、専門知識を身に付けることはもちろん、物事に対して真面目に取り組み、努力する力を伸ばすことができたと思います。

私は現在、創薬科学研究科の分子微生物学分野において、分裂酵母を用いて寿命制御機構に関する研究を行っています。また、来年度からは同研究室で大学院に進学します。今後は本研究をさらに発展させ、新たな寿命制御機構の解析を進めていきたいです。これからも研究に励みながら、自身の知識、論理的思考力も伸ばしていけるよう努力していきます。

講評：大学生活では学業に最も力を入れ、興味のある科目を全て受講し、たいへん優秀な成績を修めた。より幅広い分野に興味を持ち、より多くのことを学びたいとの考えから、計画的、積極的に取り組みんだ。地道に努力を重ねる姿勢と学修意欲は他の学生の模範となった。今後は大学院に進学し、創薬分野での研究をさらに推進することが期待される。

正課外活動への取り組み 部門 受賞者 受賞者のことば・講評

中川 晴子 医学部 医学科 5年

競歩と8年間の歩み

私は高校1年生のときから陸上競技を始め、競歩を専門に8年間取り組んできました。大学では体育会陸上競技部に所属し、全国レベルでの入賞を目標に練習に励んできました。競歩という種目は競技人口が少なく一人で練習することが多いのですが、幸い名古屋大学陸上競技部には多くの競歩選手がおり、彼ら彼女らに刺激を受けながらともに切磋琢磨して練習することができています。

結果、各種大会の標準記録を突破し、日本学生個人選手権、日本インカレともに2回ずつ出場しました。また3年次には全日本競歩輪島大会で8位入賞、5年次の日本陸上競技選手権では5位入賞を果たすことができました。記録としては5000m競歩、10000m競歩、20km競歩の3種目で名大記録を樹立しました。

今後は学業と両立しつつ、日本インカレや全日本競歩で入賞を積み重ねていけるようになりたいと考えています。これからも競歩を続け、競歩の知名度向上や普及、発展に寄与していきたいです。

講評：名古屋大学体育会陸上競技部に所属し、競歩を専門として競技に取り組んだ。大学3年の春に全日本大会で8位入賞、冬には日本選手権で13位の好記録を出した。また将来は基礎研究医を目指し、実験手技や研究方法の取得のため、さまざまな研究室で学んでいる。将来は競技と研究の両方で更なる活躍が期待される。

誰かの笑顔を作りたいから

私は大学生活を通して、留学生支援・国際交流活動、学内での留学促進活動、ならびに自身の留学経験の対外的な発信活動と、様々な角度から国際的なキャンパス実現に向けて挑戦してきました。

外務省のプログラムで本学が台湾の学生を受け入れた際の交流企画や30年続く留学生のためのバザーをはじめとして、36の国際交流企画の運営に携わり、うち15のイベントで企画長を務めました。

大学3年時にはイギリスへ1年間留学し、帰国後はその経験を活かして文学部の仲間と自主的に留学イベントを企画するなど、自分にできることを模索し続けました。そして自身の経験を対外的にも発信しようと、スピーチコンテストで優勝したり、留学仲間に声をかけて東海圏の高校でワークショップを展開するプロジェクトを立ち上げたりと、果敢に挑戦し続けた大学生活は私の大きな財産です。

卒業後は本学での学びを胸に、様々な人々が笑顔で交流できる街づくりに尽力したいです。

講評：周囲を巻き込んだ実行力とチャレンジ精神を発揮しながら、様々な角度から国際交流活動に取り組んだ。自身の留学経験を発信する活動や留学生支援国際交流活動なども積極的に参加し、名古屋大学の目指すグローバルな大学の推進に貢献した。今後は名古屋大学での経験を活かし、社会でのいっそうの活躍が期待される。